

# 5月の月間目標



## なにかしてもらったら「ありがとう」といおう！



友達が大切な本を貸してくれた、遊具を使う順番を代わってくれた、このような場面は日常よくあることです。そんな時、子どもはいつも「ありがとう」と言えているでしょうか。

感謝を伝える「ありがとう」という言葉には、言う人も言われた人も嬉しくさせる力があります。感謝の気持ちを素直に伝えることで、子どもたちは豊かな人間関係を築いていくことができます。

友達との関係が深まっていくこの時期、些細なことでも「ありがとう」と伝えることの大切さを御家庭でも話してみてください。

### 大きな声で「ありがとう」を言ってみよう！

友達や家族に何かしてもらった時には、大きな声で「ありがとう」と言ってみましょう。言われた人も、言った人もきっと温かい気持ちになるはずです。「ありがとう」の気持ちを元気よく心を込めて伝えましょう！



### まずは大人が感謝の気持ちを伝えましょう

慣れ親しんだ家族関係では、つい「ありがとう」という言葉を省略してしまうことがありませんか。忙しい時には、子どもの小さな行いにはなかなか目が向きにくいものです。食事の後、家族のお皿を下げてくれた、弟や妹の面倒をみてくれたなど、ちょっとしたお手伝いにも「ありがとう」「助かったよ」と伝えてみてください。感謝の気持ちを伝えられている子どもは、人に対しても、自然と感謝の言葉が口に出るものです。

まずは大人が感謝の言葉を口にして、子どもが人の好意に対して自然と「ありがとう」が言える環境づくりをしていきましょう。



### 「ありがとう」を言われることで・



「ありがとう」と言われることは、自分の行為が他者に認められるということです。「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という『自己有用感』は、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価」（文部科学省 国立教育政策研究所「生徒指導リーフ Leaf18」）とあるように、子どもは人の役に立ち、感謝されることで「自己有用感」を育みます。

「ありがとう」の大切さを伝えると同時に、子どもの「自己有用感」も育てていきたいものです。



毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日  
(いきいきセンター)」です

家庭教育 Web ページ



奈良県立教育研究所